

はじめよう おうちセラピー

自閉症スペクトラム（A S D）や
その他の発達の遅れを呈する子どもの
重要学習スキルを育む

言語発達が極めて未熟な子どものスキルを
一步一步積み重ねていくための指導教本

James W. Partington, Ph. D., BCBA-D

日本語版 翻訳・監修

佐藤 陽子

Behavior Analysts, Inc.

3478 Buskirk Ave. Suite 1000

Pleasant Hill, CA 94523

PartingtonBehaviorAnalysts.com

LUCREA, Inc.

www.lucrea.co.jp

はじめよう おうちセラピー：自閉症スペクトラム(ASD)やその他の発達の遅れを呈する子どもの重要学習スキルを育む

Teach Your Children Well®シリーズ

2014 年 4 月

Version 1.0

Partington, James W.

Teach Your Children Well®シリーズは、ASD やその他の発達の遅れを呈する子どもの指導者、親、教育者、その他の専門家を対象に研究結果に基づいた実践的で専門的な情報を分かりやすく提供するために開発されました。本書の情報は特定の子どもに対し助言を提唱するものではありません。また、本書の情報を活用すれば、発達障害を呈する子どもに「定型発達や機能」をもたらすことができる等の誤解をされないようお願いします。なお、本書は性質上、教育的目的や目標及びニーズの優先順位が個々の子どもに適切かどうかを判断するものではありません。親の皆様は、熟練した経験豊富な専門家の支援を受けながら、子どもに必要なスキル評価を行うと共に、教育的優先順位や療育プログラムを選考してください。そのうえで、教育的・行動的な目標を設定し、指導方法を選択してください。

Copyright ©2014 by Behavior Analysts, Inc.

ALL RIGHTS RESERVED

本著作権者の許可なしに、本著作物の印刷、写真、コピー機による複写、録音、録画に限らず、いかなる形態、手段による複製を禁止する。

©2019 Printed in Japan

ISBN: 978-4-9908927-7-7

日本語版 印刷・出版： 株式会社ルクレエ
LUCREA, Inc.
www.lucra.co.jp

献呈

To Terry Partington, my loving wife and steadfast companion who shares my desire to make the world a better place for individuals with special needs.

何らかの支援が必要な人たちにとって、より良い世界の
実現を共に目指す、堅実な友であり愛する妻、
テリー・パーティントンに捧ぐ

JWP

謝辞

多くの方の支えのおかげで本書を完成することができました。行動の指導方法の理解に必要な概念的分析をしてくださった方々、重要な言語や学習スキルを子どもに指導する実践的な方法を改良するために、わたしに子どもたちと関わる機会を与えてくださった方々、さらに、読者が全内容を明確に理解できるようにと、編集作業に多くの時間を費やしてくださった方々のおかげです。

行動教育方法論の概念分析の大部分は、わたしのメンター（指導者）である Jon S. Bailey 博士、Ricard Malott 博士、そして Jack Michael 博士の著書を参考にしています。わたしは以前より、行動分析士が用いる専門用語に精通していない方にも有益な情報を提供したい、という思いがありました。そのわたしに一般語に更訂するというインスピレーションを与えてくださったのは、Jon S. Bailey 博士と Richard M. Foxx 博士です。

また、子どもたちやそのご家族へ質の高いサービスを提供している Behavior Analysts, Inc. のスタッフの日々の努力もわたしのインスピレーションとなりました。わたしのコンサルタントスタッフ、Jessica Curell、Michael Edmondson、Holli Henningsen-Jerdes、Kathy Kilby、Carmen Martin、Marian Woodside の惜しみない努力のおかげで、わたしたちの支援する全ての子どもたちが、最大限の能力を発揮できていることに感謝しています。また、Alex Arnold、Autumn Bailey、Tammy Pease、Cathey Santopadre、Laurie Winkler の管理サポートのおかげで、わたしが本プロジェクトを遂行するための時間が取れたことに感謝しています。わたしが本書や他の重要なプロジェクトに時間を割けるよう支援してくださった Brian Beasley、Sue、Tick Ranft にも謝意を表します。

本書の読み易さを向上させるために編集的助言をしてくださった方々にも感謝します。 Autumn Bailey、Jessica Curell、Kathy Kilby、Dion Ma、Scott Partington、Terry Partington、Rita Shreffler、および Lisa Squadere-Watson の貢献により本書は編集されています。また、Dawn Nozaka は芸術的なカバーデザインを手がけ、彼の非常に貴重な支援と手引きにより本書のグラフィックデザインも完成しました。また、本のタイプセッティングについては Blake Knight の手引きに感謝します。

最も重要なことですが、本プロジェクト実現のために無限の時間を費やしてきたわたしに対し、忍耐強く支え続けてくれた家族に深謝します。妻の Terry Partington、子どもの Scott と Sonja Partington の忍耐とサポートには心から感謝しています。Scott の他ならぬ貢献のおかげで、重要な指導手順の説明を明確化することができました。Terry は文書の転記、改訂、編集に数え切れないほどの時間を費やしてくれました。Terry の支えなしには本書の実現は不可能だったことでしょう。

言うまでもありませんが、本書は、献身的な専門家とスタッフが支援する子どもたちとそのご家族のためのものであり、そうでなければ、本プロジェクトは無意味です。わたしに多くのことを教えてくれた全ての子どもたちに、特に敬意を払います。

JWP

序文

本書は、語学力が全くない、または非常に限られている子どもの全ての親または指導者にとって「必修」の教本です。本書は、技術的な専門用語の使用を控え、子どもに、どの初期スキルをどのように指導すべきかについて重要な点を分かりやすく説明しています。重要な6大スキルそれぞれを発達させるために必要な指導手順を、理論的根拠を基に説明しています。重要なスキルの指導を確実に行えるように指導手順は段階的に提示しています。また、子どものそれぞれのスキルの習得状況についても把握しやすくしています。さらに、子どもが課題に応じられるよう、やる気にさせる方法も紹介しています。

毎週、わたしの経営するクリニックには、子どもを連れたたくさんの親が評価を受けに来られます。わたしたちは子どもの可能性を最大限に引き出すためのプログラムを個々に作成します。クリニックに来所される親は、自身が全く予期しなかった状況に置かれています。つまり、最善の結果をもたらす最善の解決策を見つけ、子どもの発達の遅れを最小限にする、あるいは遅れを取り戻さなければ、と深刻に悩んでいます。定型発達児を育てるだけでも容易なことではありません。ましてや、言語面や社会面の発達に遅れを呈する子どもを育てることはそれ以上の困難を抱えています。親は経験豊富な専門家の支援を受ける必要があります。「草の根をわけても探す」ということわざのように、親というのは子どもを助けるためあらゆる手段を尽くします。しかし、多くの親が、子どもを助けるためにどのような選択肢があり、どう行動するべきなのか分からずにいます。

発達の遅れを呈する子どもの親は、多様な情報源を通して膨大な情報を収集することができます。小児科医、公共機関、また地域の学校などが、子どもとご家族のための支援情報をネットで配信しています。広範囲の情報源にアクセスできるため、正確で、時間をかけて読む価値がある情報がある一方、誤解を招くものや、療育の支援介入方法として有効性が確認できず、決定的な実証のサポートが欠けている情報も数え切れないほど存在します。さらに、たとえ信頼できる情報でも、情報を整理し、活用し、子どもに新しいスキルを習得させるための適切で効果的な指導計画を作成することは極めて困難な作業です。

応用行動分析（ABA）の原則に基づいた介入サービスの提供を専門とする民間機関もあります。この種の介入サービスは、多くの子どもが学校、家族、そして地域のさまざまな活動に参加するために必要なスキルを向上するのに効果的であることが実証されています(Howard, Sparkman, Cohen, Green & Stanislaw, 2005; Lovaas, 1987; National Research Council, 2002; Sallows & Graupner, 2005; Thompson, 2007 & 2011)。（学校制度を含む）地域の支援機関に属するさまざまな医師や専門家の支援は子どもとご家族の助けとなっています。しかしながら、個々の子どものための包括的かつ効果的な介入計画の作成と実行ができる知識やスキルを持っていない専門家が多いのが現状です。

親が子どもの最高の指導者になることが必要です。親が利用できる社会資源は多様ですが、親自身が子どもの指導方法を学ぶことが重要です。経験豊富な専門家は子どもにスキルを教えることができますが、子どもの世話に最も多くの時間を費やしているのは親です。従って、親自身が子どもと

の日常活動のやりとりを通して、多様なスキルの指導方法と手順を身につけることが重要です。子どもが他者とやりとりし、身の回りのことができるようになることは、誰よりも親にとって最も有益です。子どもが起きている時間は新しいスキルを習得する機会です。親自身が適切な指導ができるようになれば、子どもにも親にも大きな利益をもたらすでしょう。

本書の主なねらいは、親、指導者、支援者の効果的な療育プログラムの重要要素の選考を支援することです。本書を活用すれば、親や指導者は、個々の子どものニーズを把握し、適切な個別教育プログラムを作成できます。さらに、そのプログラムの課題目標の適切な指導手順も理解することができます。

本書は学者を対象としたものではなく（効果的なプログラムを開発する方法を学生に教える目的として、大学の講義に使用することは可能ですが）、親、指導者、子どもの成長を望む一般の方を対象にしています。効果的な指導をするために専門用語を学ぶ必要はありません。子どもの成長を願い、新しいスキルを適切に教えたいと願う一般の人たちのために書かれています。

自閉症児の能力は個人差が著しいため、一冊に全ての学習児のニーズを網羅することは不可能です。従って、本書では、現在全く発語がないか、または語彙力が 20 語未満の子どもを対象にしています。本書のねらいは、適切な個別教育プログラムを作成し、子どもの基礎言語スキルと社会相互スキルの向上を促すことです。そして、毎日の他者とのやりとりを通して、子どもがその他の重要なスキルを獲得していくことにあります。

本書「はじめよう おうちセラピー：自閉症スペクトラム(ASD)やその他の発達遅れを呈する子どもの重要学習スキルを育む」は、*Teach Your Children Well*®シリーズの一作品です。本書で取り上げるスキルは、他の多様な重要スキルの発達に不可欠な基盤スキルです。子どもは幅広い語彙力を身につける必要があります。また、物や出来事について説明できるようになり、単語を正しい順序で組み合わせ、複雑な文を作れるようになることも重要なスキルです。*Teach Your Children Well*®シリーズの中には、形容詞、代名詞、前置詞にまつわる理解や表出スキルの向上や、会話力の拡大をねらった指導方法について説明している本もあります。しかし、このような高度なスキルを学ぶためには、本書で取り上げている基本スキルの習得が不可欠です。

わたしの目的は、親と指導者のチームに有益な指導方法を提供し、子どもの最適な発達の改善の実現に向け、その指導方法をチームが共有して選考できるよう援助することです。誰ひとりとして同じ子どもはいません。従って、療育プログラムに関する全ての指導計画や選択する課題は、一人ひとりの生活のあらゆる側面を考慮する必要があります。ASD やその他の発達遅れを呈する子どもの指導に精通していて、あなたの子どものことをよく理解している専門家の協力を得ながら、本書の情報を活用してください。

JWP

訳者あとがき

日本語版の出版については、著者である Partington 博士から 2017 年に提案をいただきました。博士の著書「ABLLS-R®」の日本語版の翻訳、出版を終え一年が経った頃です。博士に「ABLLS-R®」のような「個別指導計画」や「評価ツール」が非常に貴重で有効的であると伝えると共に、日本では、ことばや基本的な学習スキルが著しく遅れている子どもを育てる親、指導者、支援者のための分かりやすい教本が少ないことを相談しました。すると、本書を翻訳してみてはどうかと提案してくださったのです。

博士と博士を支えるさまざまな方が無数の時間を費やして仕上げた本書を翻訳することは、責任重大なことでありプレッシャーを感じました。指導の方法や手順など、内容は忠実に翻訳する一方で日本の文化や言語に合うよう配慮し、かつ分かりやすくすることを特に心がけました。

ようやく 1 年 2 ヶ月をかけ日本語版が完成しました。その間、わたしを常に励まし続けてくれたのは、これまでに指導をしてきた子どもたちとそのご家族の笑顔、そして、将来この本に出会うであろう子どもたちとそのご家族、支援者の笑顔を想像することでした。

本書の翻訳、編集の作業を進めるにあたり、サポートしてくれた姉に感謝します。また、株式会社ルクリエのスタッフにも厚く御礼を申し上げ、感謝する次第です。スタッフが子どもたちとそのご家族に敬意と心のこもった丁寧かつ適切な指導を提供している姿はいつもわたしの心の支えになっています。

本書が療育支援を必要とする子どもたち、そのご家族、支援者のために広く活用され、沢山の笑顔を与えられますよう心より願っています。

佐藤陽子

目次

献呈	i
謝辞	iii
序文	v
訳者あとがき	vii
目次	ix
第 1 章： 基本スキルの構築	1
学習の目標：学ぶスキルを身につける	1
基本学習スキル	2
協力性のスキルアップ	2
一つのスキル指導から得られる多くの利益	3
優先 6 大スキル	3
親による日常生活を通した重大スキルの指導	4
スキル 1: 社会的なやりとり	4
スキル 2: 言語理解	4
スキル 3: 動作模倣	5
スキル 4: 音声模倣(エコーイック)	5
スキル 5: マンド	5
スキル 6: 視知覚機能スキル	6
ケース紹介：ダニエル	6
6 大スキルの向上が求められる理由	8
ケース紹介：ボブ	8
まとめ	9
第 2 章： 社会スキルの基盤形成	11
なぜ人は他者とやりとりするのか	11
子どもが人を拒否する理由	12
接近行動の強化	13
遊びを通した子どもへの接近	14
社会的なやりとりの持続	14
遊びを通したやりとり	15
アイコンタクトの重要性	15
マンドができない子どもにアイコンタクトをさせる方法	16
マンドスキルの重要性	16

図 3-7: 子どもの名詞の理解度を表記した 「はじめの 220 名詞リスト」のサンプル.....	44
子どもを混乱させない工夫	44
言語理解スキルの向上.....	45
図 3-8: 「理解と表出スキル：般化のデータシート」	46
初期理解弁別課題を終えたら	47
まとめ	48
初期言語理解スキルの発達に関する課題目標	49
第 4 章： 動作模倣スキルの指導	51
動作模倣にまつわる要素.....	51
動作模倣スキルの指導.....	53
はじめのターゲットの選択方法	53
初期の動作模倣指導手順.....	54
図 4-1: 動作模倣課題の誤反応修正手順	55
物を使った動作模倣	56
太鼓をバチで叩く動作模倣の「シェイピング」の手順.....	57
動作模倣スキルを向上させる方法	57
マンドとの組み合わせ.....	58
日常活動を通した動作模倣指導	58
ケース紹介：トレバー	59
動作模倣の般化スキルを養うために.....	60
動作模倣の指示に変化をつける	61
多様な身体部位にまつわる動作模倣.....	61
粗大運動と微細運動の動作模倣スキルの向上	61
指さしとグッドサインの指導方法	62
動的・静的な動作模倣	62
時間的、空間的な動作模倣.....	62
系列的動作模倣	63
離れた人やミラーイメージの動作模倣.....	63
ミラーイメージの動作模倣の指導方法.....	63
動作と音声模倣の関係性.....	64
ケース紹介：ノーマン	64
まとめ	65
動作模倣スキルの発達に関する課題目標	66

付録 2	145
パーティングトン模倣スキルアセスメント	147
付録 3: 音声模倣／エコーイックのアセスメント	153
音声模倣／エコーイックのアセスメント	155
語彙集	171
参考文献	175

を学んでしまいます。ですから、指導する上で最も重要なことの一つは、子どもが指導者の指示に応じる、または指導者に対する協力的姿勢を確実にすることです。本書が取り上げている学習基盤のスキルアップにより、子どもの協力性を養うことができます。また、それらの基盤スキルの発達は、指示に対する子どもの積極的な態度と従命能力の両方を伸ばすと共に、子どもの行動に対する指導者の制御力を改善します（セクション A）*。

一つのスキル指導から得られる多くの利益

一つのスキルを指導する際、それ以外の多様なスキルアップも同時にできることを忘れてはなりません。例えば、物のマンド（例：レーズン）を指導しているとします。指導者は、単にマンド（要求言語行動）スキルを教えるだけでなく、その子どもが指導者に注目する行動や指導者の指示に意識を向ける行動を強化することができます。また、指導者のヒントや指示への協力性も同時に強化できるので、結果、子どもはより協力的になります。また、この指導を通して（手話やサインを使っている場合は）子どもの模倣スキルや（音声言語の場合は）音声模倣スキルも向上するでしょう。さらには子どもが指導者から褒められることを意識し始めたり、指導者の表情の変化に気づいたり、強化子に続く指導者の声の抑揚などにも注意を払うようになるかもしれません。指導者は子どもを褒めることとその他の強化子を巧みに組み合わせることにより、子どもが自然な環境で社会的強化子を求めて積極的に学習に取り込むよう導くことができます。

技術的コメント：ある行動をするように子どもを強化する、という言い方をよく耳にしますがこれは誤りです。強化するのは子どもではなく行動です。

簡単なパズルを完成させる課題もまた、一つのスキルを指導することから別の多くのスキルが得られる例です。例えば、型はめ式パズル指導で、教材への注目、自力での遂行、微細運動、協調性の向上、そして指導者の反応を意識すること、などを強化することができます。経験豊富な指導者であれば、子どもにしっかり聞くこと、集中力を高めること、自分の周りを素早く確認すること、より複雑な指示に意識すること、なども指導できます。

優先 6 大スキル

ことばが全くない、またはほとんどない子どもがまず優先的に身につけなければならないスキルは 6 つです。まず、他者とのやりとりはよいことだという経験をさせなければなりません。他者の言動に関心を持てばよいことがあると学ぶ必要があります。また、欲しい物や活動をマンドする時に架け橋となるのがことばであることを子どもは学習しなければなりません。

* ABLLS-R®のセクション A 参照（例：「B 1」はセクション B の課題番号 B1、「C 14」はセクション C の課題番号 C14 を示す）



ボール遊びをしながら他者への注目を指導している様子

ボール遊びも他者とのやりとりを増やすのに効果的です(K 12)。床に座った状態で他者にボールを転がすといった遊びを通し、子どもに他者の行動を観察させ、他者が自分にボールを返そうとしている様子や、反対に自分が転がす際に他者の視線が自分に向いているかを確認する練習ができます。また、立ってボールを投げたり受けたり、ボールを床に跳ねさせたりして遊んだりもできます。ただ単に、子どもを公園で遊ばせ溜まったエネルギーを出させるのではなく、同じ環境を効果的に活用し、遊びや活動の幅を広げる工夫をし、他者への注目や他者とのやりとりを増やすことが大切です。

ケース紹介：人好きになったニック

4 歳の男児ニックがわたしの経営するクリニックに初回評価と言語スキルの療育を受けるために来所しました。ニックが入室する時に、まず気づいたのはアイコンタクトが全くないことでした。飲み物が欲しい時は「ジュース」と言うだけで親にも他者にも一切関わろうとしませんでした。わたしはニックが何かをマンドする時は、誰かに直接話しかけるようにしなければならぬと親に伝えました。まず、何か欲しい時に、それを持っている大人を見るという練習から始めました。ジュースが欲しい時は、まずわたしを見させ、「ジュース」と言うようにし、視線を合わせることができた時はコップに少量だけ入れて与えるようにしました。少量にしたのは、アイコンタクトの練習を連続して行う必要があったからです。

ゲットのほうの手を子どもに近づけます。

正答できるようになったら、今度は内容を少し変えた 2 選択課題をします。ターゲットのクッキーを一方の手の平に置き、もう一方にはクッキーと違う物（例：アメ）を置いて、両手を子どもに見せ、「クッキーを触って」と指示します。

このようにして、強化子を使った 2 選択課題が問題なくできるようになれば、他の物も取り入れバリエーションを増やしましょう。同様の手順で、プロンプトしながら正答を促し、プロンプトをフェーディングさせます(C 12)。

物を用いた理解選択スキルの指導

さまざまな種類の日用品の名称が理解できるようになることは非常に重要です。物(3D)の名称理解(C 11-13 & 16)に加え、写真(2D)の認識(C 14 & 17)も正確にできなければなりません。子どもは日用品には強化子ほどの関心を持たないかもしれませんが、日用品の名称を理解できるようにならなくてはなりません。最初の名称は子どもが普段目にしている物を選びます。一般的には、実物を使った指導が望ましいですが、子どもによっては写真を使うこともできます。手で操作したり触れたりできる 3D の物のほうが、普段の生活環境でよく目にしていることもあり、後の「命名スキル」を発達させる上で効果的です。認識しやすく、命名しやすく、生活の中でよく目にするもの(例：靴、コップ、スプーン)を選択します。実物で物の認識ができるようになれば、次に写真を用いて練習します。図 3-4 は、固有名詞を選択する際の注意点をまとめたものです。

図 3-4

最初に指導する名称の選択手順

1. 子どもの日常生活上、重要かつ意味のある名称を選択する。
2. 普段の活動で頻繁に見たり使ったりする物を選ぶ。
3. 明確に命名できる名称にする。つまり、「ボール」などさまざまな形態に関係なく、固定した名称であること。また、子どもに関わる全員が同じ名称を使い、単一語で識別できること(例：ソファーvs.イス、コート vs.上着/パーカー)。
4. トラックと車は性質が似ているが、帽子と木は全く性質が異なる。似た性質の名称を選択するのではなく、弁別しやすい名称を選択する。
5. 子どもが集中しやすく、手で触ったり持ったりできるように、変化する「動作語」は避け、性質が固定されている名詞を選ぶ。

「はじめの 220 名詞リスト」の活用方法

「はじめの 220 名詞リスト」を活用すれば、言語理解スキルが未熟で認識できる名詞がまだほとんどない子どもの療育を始める際に、現時点で子どもに指導すべき最も適切なターゲット語が選択できます。このリストには子どもが生後数年間で習得するとされる名詞が含まれています。

作を自発的に模倣できた際は、その行動を十分に強化することを絶対に怠らないようにしてください(D 26 & D 27)。

ケース紹介：トレバー

STARS クリニックで療育指導を受けていたトレバーは生後 4 歳の男の子でした。トレバーはセラピストによる指導の元、基本的な言語と学習にまつわる幅広いスキルを学んでいました。課題目標の一つは動作模倣のスキルアップでした。

ある日クリニックにトレバーを迎えに来た父親から、トレバーに新しいスキルをもっと教えるにはどうしたらよいかと相談されました。日々多忙でトレバーのために時間が割けない悩みも打ち明けてくれました。そこで、余分な時間をほとんど割かなくても指導が可能な方法が 2、3 あることを伝えました。動作模倣スキルの指導は簡単なので、父親とトレバーを車まで送りながら教えました。まず、近くにあったフェンスを叩く模倣の指示方法と、プロンプトの仕方について、父親に実際にやってみせました。まず、トレバーの目線に合うように腰を落とし、トレバーがこちらを見ていることを確認してから、「トレバー、こうして」と言って、フェンスを叩きました。無反応でしたので、再度指示をして見本の動作をし、トレバーの腕を持ってフェンスを叩くように身体的プロンプトしました。そして、「上手に叩けたね」と褒めました（トレバーは褒められるのが好きです）。次は、身体的プロンプトなしで指示をしました。すると、トレバーが自立でフェンスを叩くことができたので、やや大げさに褒めてあげました。

動作模倣課題の手順について父親に再度説明した後、今度は実際に父親にドアでトレバーと動作模倣課題をするよう提案しました。わたしの口頭の説明にしたがって父親がドアを叩くと、父親もトレバーに正反応させることができました。父親は、トレバーが自分の指示にしたがってドアを叩けたことに感激していました。

駐車場にはマンホールがあったので、今度は、マンホールの上で足踏みをする動作をトレバーに模倣させる方法を父親に説明しながら実際にやってみせました。前回同様、身体的プロンプトが必要でしたが、数回練習するとプロンプトなしでできるようになりました。

車に乗る前に、最後に父親に何か別の動作模倣の練習をすることを提案しました。父親は少し考えてから、車のドアを叩く動作模倣をやってみたいと言いました。適切な課題であると父親に伝え、父親は息子の目線に合うように腰を落とし、「こうして」と言ってドアを叩きました。すると、トレバーは素早くドアを叩くことができました。父親は嬉しそうにトレバーを褒め、強く抱きしめました。わたしは父親が説明通りにできたことを評価し、「それほど難しくなかったでしょう？」と尋ねると、「トレバーにしっかり見させることができさえすれば、それほど難しくないですね」と答えました。同様にしてほとんどの動作をトレバーに模倣させることができると父親に伝えました。すると次に父親がトレバーを迎えに来た時、トレバーに新しく教えた動作模倣を 5、6 見せてくれました。新しいスキルを息子に教えることは驚く程簡単で、時間もほとんどかからなかったと喜んでいました。また、父親は想像より遥かに多くの指導の機会があると気づいたようです。

5

音声模倣スキルの発達

初期の音声模倣スキルの向上

ASD やその他の発達障害のある子どもの多くは全く発語がないわけではなく多少なりの発語がありますが、一部の子どもは、発声発語器官の発達が未熟なため音やことばがうまく産出できません。人が発声したり、ことばを産出したりする時、発声発語器官の複雑な制御運動が行われています。つまり、子どもがことばを産出できるようになるには、肺からの呼吸をコントロールさせながら、口、舌、声帯を適切な位置で協調運動するスキルが必要です。動作模倣では子どもを身体的にプロンプトできますが、音声模倣の場合、子どもの顔面や口部を身体的に動かしても目標音を産出させることはできません。ですから、音声模倣の指導は簡単ではありません。ある程度のプロンプトはできますが、同じ音を子どもの口から産出させるのは不可能です。とはいっても、子どもが音声によるコミュニケーションができるようになることは非常に重要なため、音、単語、多語文の音声模倣練習を徹底的に行う必要があります。このように、音声模倣の練習は言語療法において最も重要な課題の一つです。

発声のメカニズムは複雑なため、他者の指示に応じて子どもが音やことばを模倣できるようになるには、5、6 の重要なスキルが必要です。まず、他者の指示に従うことは自分にとってよいことだという経験が身につく、指示に協力的であること。次に、音やことばの模倣に意欲的であること。さらに、きこえが正常な子どもであれば、他者の音声やことばに全集中して傾聴できるだけでなく、見本と同じか類似音を産出するために自分の身体を適切に制御できること。例えば、子どもに集中させ、「んー」と言うように指示した場合、子どもは自身の筋肉を緊張させ、呼吸を声帯から出し、目標音を産出することができなければなりません。

他者が子どもに音やことばを模倣させようと努めても、簡単な音さえ産出させることができない場合があります。聞いた音をうまく再現できない経験をした子どもは、このようなやりとりを避ける傾向が高くなります。そのため、子どもを意欲的にさせるために、強力な強化子を使う必要があります。また、子どものレベルに合った難易度の目標音（語）を選択し、正反応の確立を最大限に高め、成功体験をさせることが重要です。

聴覚的刺激に対する偏聴傾向の有無

言語発達に遅れがあると感じたら、まず聴力検査をする必要があります。経験豊かなオーディオロジスト（聴覚機能訓練士）は、言語発達の遅れが、聴力障害が原因であるか評価できます。また、口部運動障害が原因で音声言語が発達しないケースもあるため、スピーチセラピストによる構音機能検査をし、口、口唇、舌の筋肉の発達や制御能力、運動機能についても評価する必要があります。

- Schreibman, L. (2005). *Are there Core Deficits in Autism?*. In: *The science and fiction of autism*. Cambridge, Massachusetts: Harvard University Press.
- Siegel, B., (2003). *Helping Children with Autism Learn*. New York: Oxford University Press, Inc.
- Skinner, B. F. (1957). *Verbal behavior*. New York: Appleton-Century-Crofts.
- Slaughter, V. & McConnell, D. (2001). Emergence of joint attention: relationships between gaze following, social referencing, imitation, and naming in infancy. *Journal of Genetic Psychology*, 164(1), 54-71. Sloane, H. N., & MacAuley, B. D. (Eds.) (1968). *Operant procedures in remedial speech and language training*. Boston: Houghton Mifflin. Spradlin, J. E. (1974). Development of receptive language. In R. L.
- Schiefelbusch & L. L. Loyd (Eds.). *Language perspectives, acquisition, retardation, and intervention*. (285-311) Baltimore: University Park Press. Spradlin, J. E. (1963). Assessment of speech and language of retarded children: The Parsons language sample. *Journal of Speech and Hearing Disorders Monograph*, 10, 8-31.
- Sundberg, C. T., & Sundberg, M. L. (1990). Comparing topography-based verbal behavior with stimulus selection-based verbal behavior. *The Analysis of Verbal Behavior*, 8, 31-41.
- Sundberg, M. L., Michael, J., Partington, J. W., & Sundberg, C. A. (1996). The role of automatic reinforcement in early language acquisition. *The Analysis of Verbal Behavior*, 13, 21-37.
- Sundberg, M. L., & Partington, J. W. (2013). *Teaching language to Children with Autism or Other Developmental Disabilities*. Pleasant Hill, CA: Behavior Analysts, Inc.
- Terrace, H. (1963). Discrimination learning with and without “errors.” *Journal of the Experimental Analysis of Behavior*, 6, 1-27.
- Tomasello, M. (2001). Perceiving intentions and learning words in the second year of life. In M. Tomasello, E. Bates (Eds.), *Language Development: The Essential Readings* (pp. 11-128). Oxford, UK: Blackwell.
- Thompson, T. (2011). *Individualized Autism Intervention for Young Children*. Baltimore, MD: Paul H. Brookes Publishing Co.
- Thompson, T. (2007). *Making Sense of Autism*. Baltimore, MD: Paul H. Brookes Publishing Co.
- Touchette, P. E. (1971). Transferring of stimulus control: Measuring the moment of transfer. *Journal of the Experimental Analysis of Behavior*, 15, 347-354.
- Touchette, P. E. (1968). The effects of graduated stimulus change on the acquisition of a simple discrimination in severely retarded boys. *Journal of the Experimental Analysis of Behavior*, 11, 39-48.
- Touchette, P. E. & Howard, J. S. (1984). Errorless Learning: Reinforcement Contingencies and Stimulus Control Transfer in Delayed Prompting. *Journal of Applied Behavior Analysis*, 17, 175-188.
- Van Riper, C. (1978). *Speech correction principles and methods (6th ed.)*. New York: Prentice-Hall.
- Vaughan, M. E., & Michael, J. L. (1982). Automatic reinforcement: An important but ignored concept. *Behaviorism*, 10, 217-227.